

# 泉市長就任まもなく3年

## 「中核市移行迅速に」

明石市の泉房穂市長は28日、保健所設置などの権限が移譲される「中核市」の指定要件緩和などを盛り込んだ地方自治法改正案が衆議院本会議で可決されたことを受け、「市民との約束である中核市移行を速やかに果たし

たい。移行により(迅速な)新型インフルエンザ対策など、市民サービスの向上が果たせる」と述べた。

泉市長は5月1日に就任から丸3年を迎えるのを前に、28日、市役所で会見した。

明石市の人口は29万



就任3年前に会見する泉市長(市役所)

8588人(4月1日現在)で、2002年に環境保全行政の一部権限を持つ「特別市」に指定された。改正案は中核市の指定要件を、現在の「人口30万人以上」から「20万人以上」に緩和する。

市によると、今後、移行に伴う事務量や必要な財源、人員などを精査した上で市会と県の議決を経て国に申請する必要があり、一般的には指定までに4、5年かかるという。

泉市長はこのほか、就任からの3年間で、中学3年生までの医療

費無料化など、子ども関連の施策が拡充されたとの認識を示した。

美術科などを当該科目の免許を持たない教員が教える「免許外教科担任」が市内の4中学校で生じていることについては「予算付けが必要であれば応援していきたい」と述べた。

次期市長選への対応に関しては「4年間の負託を受けているので、公約を果たすべくベストを尽くす。(市長選については)何も決めていません」とするにとどめた。

(新聞真理)